

「2009年版中堅・中小企業のサーバ/クライアント管理実態と展望」を発刊

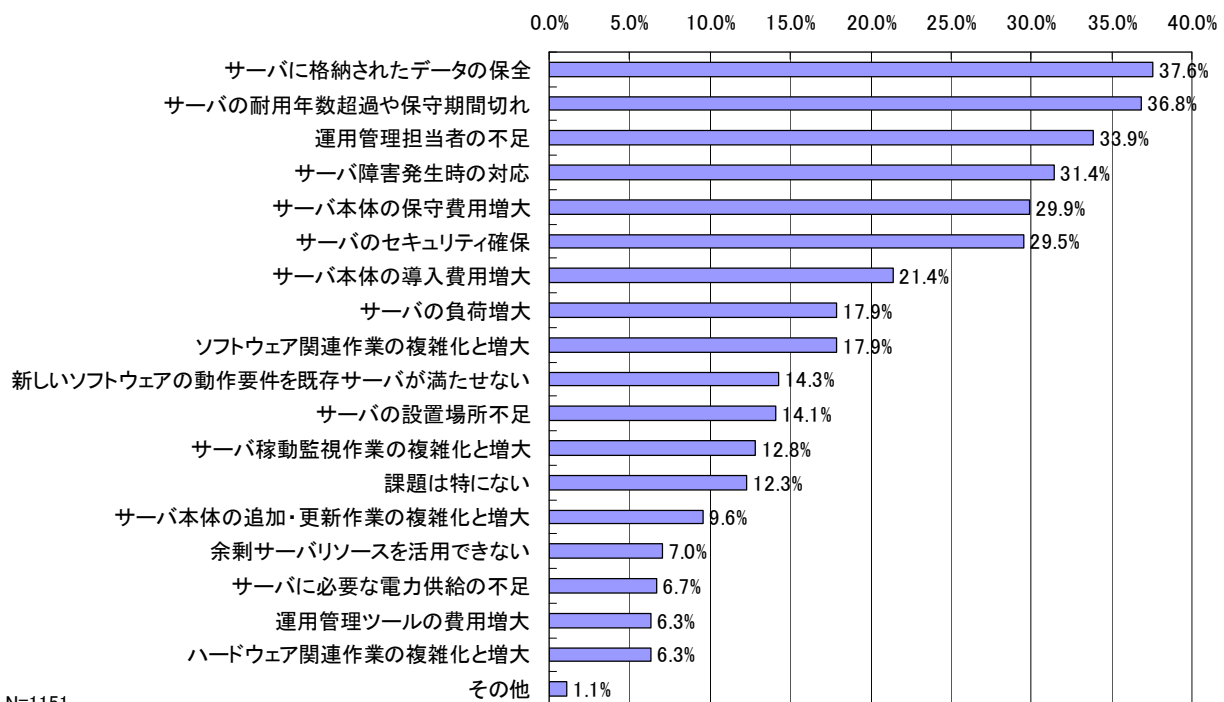
株式会社ノークリサーチ（本社〒120-0034 東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター1705：代表 伊嶋謙二 03-5244-6691 URL：http://www.norkresearch.co.jp）は中堅・中小企業市場におけるクライアントおよびサーバの管理面における課題と対策を知る上で必須となる年刊レポートの最新版「2009年版中堅・中小企業のサーバ/クライアント管理実態と展望」を発刊した。

- サーバ管理の課題は運用管理 / セキュリティ / レガシー資産 / 事業継続
- 仮想化はサーバ管理課題の解決に有効な手段だが、ユーザ側の認識は不足
- コスト削減の一環として、ユーザ自身によるサーバの構築・運用が増加
- クライアントPC管理は包括的対策よりも部分的なセキュリティ対策を優先

ーサーバ管理の課題は運用管理 / セキュリティ / レガシー資産 / 事業継続

サーバ管理の課題を尋ねた結果では、従来からあった「運用管理負担の増大」「セキュリティ対策」に加え、長年利用している業務システムが稼動するサーバの耐用年数超過や保守期間切れによる「レガシー資産管理」及び、サーバ障害発生時の対応などに関連した「事業継続計画」の2つが新たに加わっている。IT投資の抑制が強まる中、ユーザ企業の視点は現在保有しているIT資産の整理統合によるコスト削減や、企業存続を脅かすリスクの回避といった事柄に向かいつつあることが背景にあると考えられる。

サーバ管理の課題



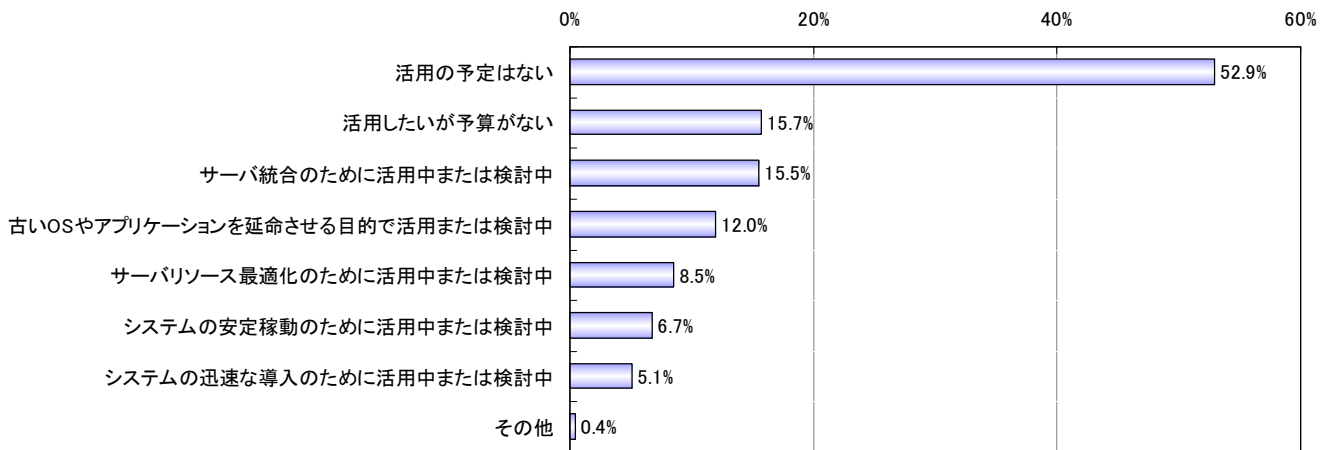
N=1151

－仮想化はサーバ管理課題の解決に有効な手段だが、ユーザ側の認識は不足

サーバ管理課題に対する有効な解決策の一つがサーバ仮想化である。特に今回の調査の特徴的な傾向である「レガシー資産」と「事業継続計画」における効果が期待できる。サーバハードウェアとOSより上のソフトウェアを切り離すことによって、古いOS上で稼動するレガシー資産を最新のサーバハードウェア環境で稼動させたり、サーバハードウェアが故障した場合でも、OSより上の仮想サーバイメージを別のサーバ上へ移動させることで業務停止トラブルを最小限に抑えることができる。しかし、中堅・中小企業の仮想化活用に対する意欲はまだ低く、半数以上が「活用の予定はない」と回答している。中堅・中小企業ユーザの間では、「仮想化はサーバ台数を減らすための手段であり、サーバ台数が少ない自社には関係ない」といったある種の誤解が少なくないと推測される。実際、省スペース化は必要ないと回答するユーザは約3割存在し、物理的な意味でのサーバ台数削減だけでは十分な訴求力を持ち得ないのが現状である。

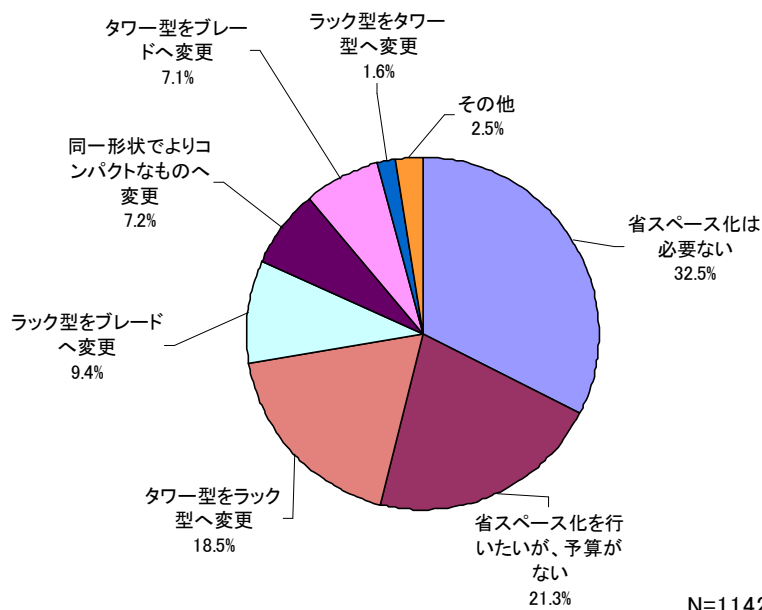
サーバベンダとしては、ユーザ企業が抱えるサーバ管理課題を仮想化がどう解決するか？を具体的な運用場面に沿った形でわかりやすく啓蒙していく努力が求められる。

仮想化技術の活用状況



N=1126

サーバ形状関連の省スペース化への取り組み



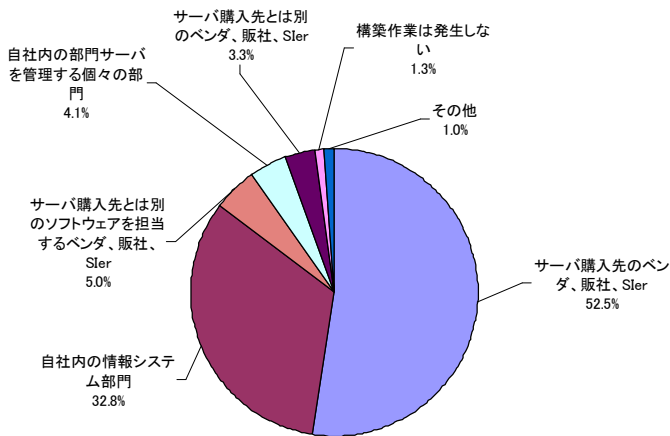
N=1142

ーコスト削減の一環として、ユーザ自身によるサーバの構築・運用が増加

サーバの構築作業（サーバ初期設定やシステム開発など）及び運用作業（バックアップ、パッチ適用など）の実施担当者に関する現状と今後の意向を尋ねた結果が以下のグラフである。

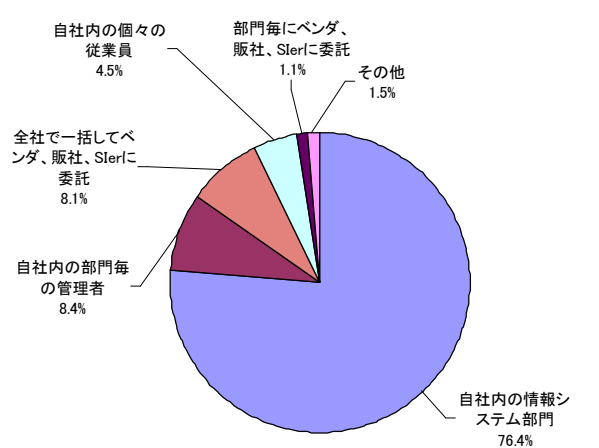
構築作業と運用作業のいずれについても、現状と今後の意向を比較すると「自社内の情報システム部門」が担当するという回答の占める割合が高くなっている。景気悪化の影響などで、ユーザ企業はIT資産管理に関連するコスト削減意向を強めており、本件以外の調査結果においてもそうした傾向が見受けられる。その一環として、サーバの構築作業や運用作業についても、社外に委託せずに済むことはなるだけ自社内でカバーしようという考えが働いているものと考えられる。

利用中サーバ構築作業担当者



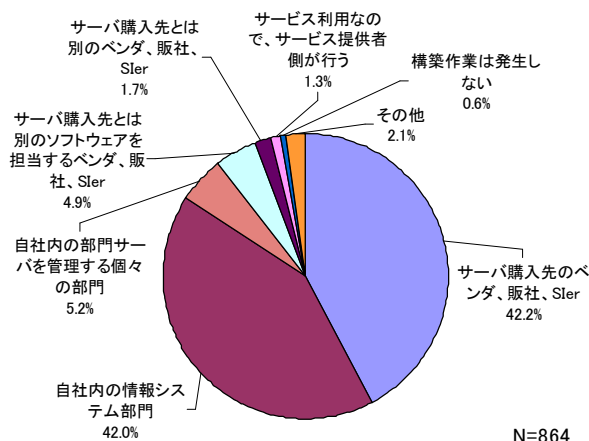
N=3644

利用中サーバ運用管理作業担当



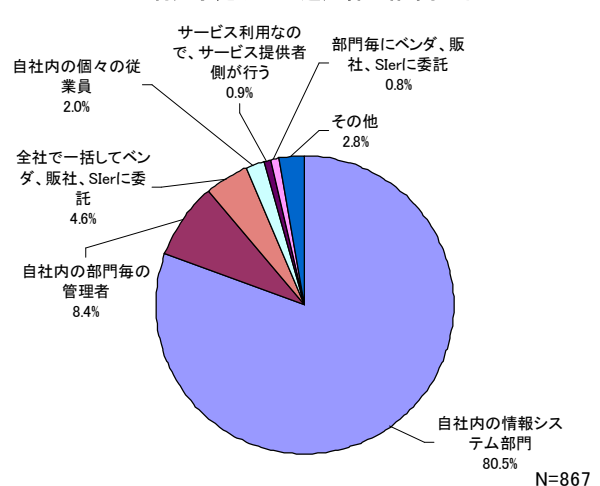
N=3636

利用予定サーバ構築作業担当者



N=864

利用予定サーバ運用管理作業担当



N=867

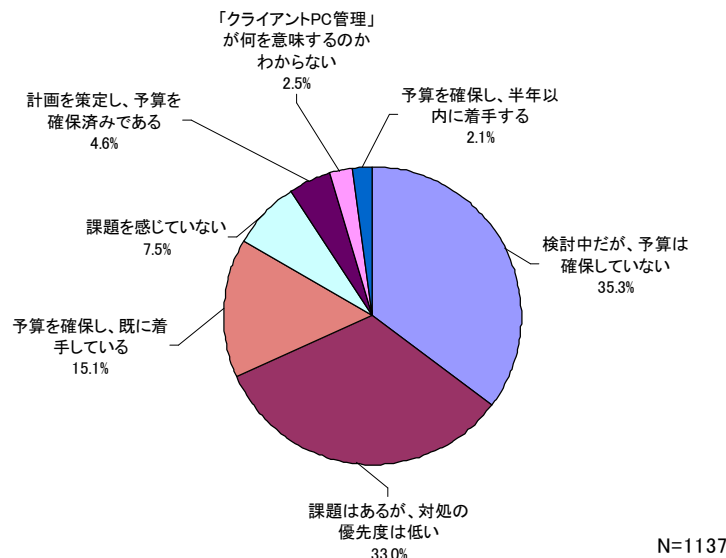
クライアントPC管理は包括的対策よりも部分的なセキュリティ対策を優先

クライアントPC管理はサーバ管理と並んでユーザ企業にとっては重要度の高いIT関連タスクである。しかし、サーバ管理と比べるとクライアントPCに対するユーザ企業の取り組み姿勢にはあまり積極性が見られない。通常業務を遂行する上では、経営層がクライアントPC管理に起因したトラブルの影響度を把握しづらいからである。例えば、社員のクライアントPCハードディスクが頻繁に故障し、データ復旧に追われているという状況は情報システム部門や当該の社員にとっては一大事であるが、会社経営全体に対して恒常的に影響を及ぼす要素とはみなされない。

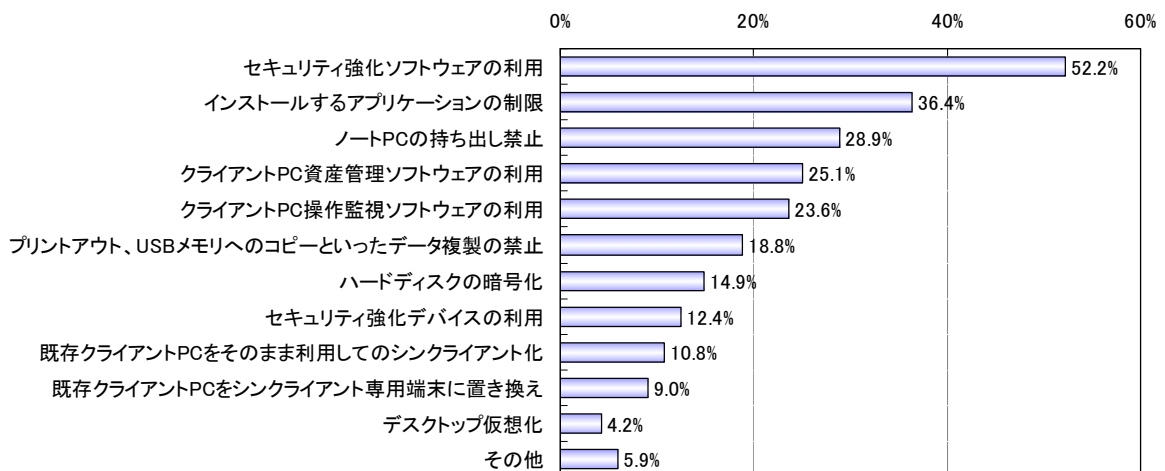
しかし、クライアントPCからの情報漏洩については経営の観点からも大きなリスクとして認識される。そのため、ユーザ企業は「コストをなるべく抑えて、最低限情報漏洩を防止する施策を打つ」という選択を取りやすいということになる。それを裏付けるようにクライアントPC管理の手段を尋ねた結果ではクライアントPCからの情報漏洩を防止するための対策が上位を占めている。

セキュリティ面だけでなく、運用管理面も含めた網羅的な観点で見た場合の理想的なクライアントPC管理の手法はシンクライアントの活用である。しかし、IT投資が抑制されている状況下では中堅・中小企業がシンクライアント活用を進める可能性は低い。当面はソフトウェアを主体としたピンポイントでのセキュリティ対策が続くと予想される。

クライアントPC管理への取り組み

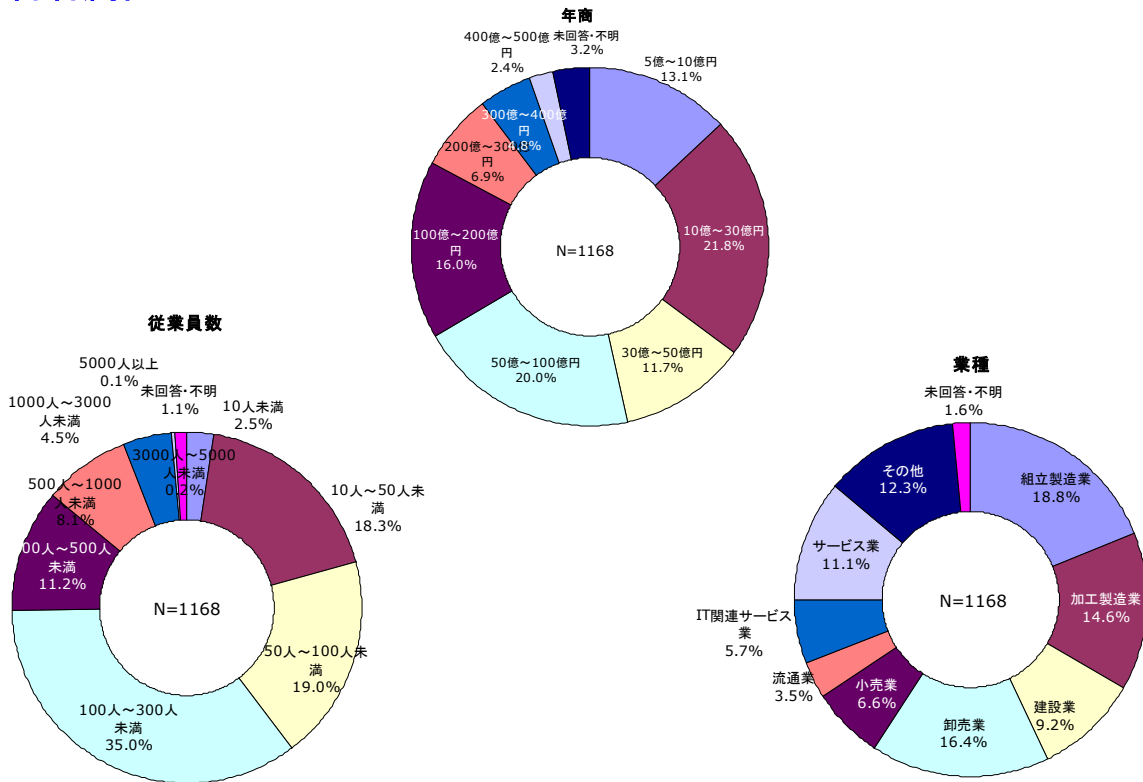


クライアントPC管理の手段



N=1063

— 回答者属性 —



調査概要

- 【対象企業】全国の年商5億円以上~500億円未満の民間企業7000社
- 【有効回答数】1168社
- 【調査方法】郵送アンケート
- 【調査実施期間】2009年1月~3月

レポート概要

- 【発刊日】2009年4月13日
- 【仕様】体裁:ハードコピー版(A4判約100ページ)/CD版(Microsoft Word/Excel形式)
- 【価格】99,750円(税込)
- 【概要】

- ・ユーザ企業に導入されているサーバ台数とクライアント台数の遷移
- ・サーバ利用用途(基幹系、情報系、インフラ系など8項目)毎の構築作業担当者、運用作業担当者など
- ・サーバ管理の課題
- ・サーバ統合や省スペース化への取り組み
- ・仮想化技術の活用状況
- ・クライアントPC管理の課題と取り組み

本リリースに関するお問い合わせ

NORKRESEARCH

株式会社ノークリサーチ
 担当: 岩上由高
 東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター1705
 TEL 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692
 inform@norkresearch.co.jp
<http://www.norkresearch.co.jp/>